

19カ国30人被爆体験聞く

ユニタールが中区で研修

19カ国の政府関係者や市民団体メンバーら約30人が5日、広島市中区の原爆資料館で被爆体験を聞いた。国連訓練調査研究所(ユニタール)の世界遺産保全に関する研修の一環。

小倉さん(左端)の被爆体験に聞き入る参加者



現在の東区牛田の自宅近くで8歳の時に被爆した小倉桂子さん(73)〓中区〓が英語で「自宅近くに逃れてきた人たちは皮膚が焼けただれ、水を飲むと息絶えてしまった」などと振り返った。また福島第1原発事故に触れ

「(原発を含めた)核なき世界をつくらなければならぬ」と述べた。

米国の市民団体のクラウディア・フローズさん(43)は「核の被害を具体的に知ることができた。恐ろしさを多くの人に伝えたい」と語った。

(野田華奈子)

6 July 2011, Chugoku Shimbun
30 government officials / NPO members from 19 countries listened to the testimony of Ms. Keiko Ogura, one of the A-bomb survivors.